

総合的な学習の時間 「福祉体験」

相模原市立田名北小学校



単元（題材）目標

○福祉体験学習で出会った方とのふれあいを通して人との接し方を学ぶとともに、他者への理解を深め、「みんなが幸せであること」「共に生きていくこと」を考えられるようにする。

（1）実施時期

平成 30 年 10 月 29 日（月）

（2）対象（学年等・人数）

第 4 学年児童：20 名程度

*聴覚障がいをもつ方からの講話における
手話体験・要約筆記体験グループの児童
担当教諭



（3）指導者（教諭・外部講師等）

ろうあボランティアの方、通訳ボランティアの方
社会福祉協議会の方

（4）実施内容

- ろうあの方から、日常生活の楽しみや工夫、困っていることなどのお話を聞く。
 - 簡単な手話「はい、いいえ、わかる、わからない」など簡単な日常会話と、先生の名前、自分の名前を手話でどのようにして表すのかを教わった。
 - 福祉体験では、他に
 - ① 車いす体験・車いすで生活されている方からの講話
 - ② 視覚障がいがある方からの講話、誘導・点字体験
 - ③ 聴覚障がいがある方からの講話、手話体験・要約筆記体験 の3つのグループに分かれて体験活動を行った。
- その後、体験したことをまとめ、感想を含めた報告会をワールドカフェ方式で行うことで、体験を共有することができた。

（5）成果

- 手話を使ってすらすらと話をする姿、それを通訳して伝える姿を「すごい」と感じている児童が多かった。不自由で大変な生活をしているのではないかと想像していた子どもたちは、「私にとっては、これが普通です。」「大変だとは思いません。幸せですよ。」と話してくださる講師の方々の言葉に、心を動かされている様子だった。
- 耳の不自由の方が、生活のなかで使っている道具（きらきら光るインターフォン・振動で起こしてくれる目覚まし時計）などの話を聞き、さまざまな手立てを使って、工夫していることを理解することができた。
- 今回の福祉体験以外にも、認知症サポーター講座や車いすバスケットなどの体験教室を行うことで、多面的な角度から福祉を考えることができた。